舞踊鑑賞における共感について

～劇場鑑賞とVTR鑑賞の比較を中心に～

重永尚美・石黒節子

［研究目的］

舞踊鑑賞における共感を探る一視点として，ハンナが「劇場のパフォーマンスにリアルタイムで接することは，フィルム上映においては欠落してしまうような予測しないものに遭遇する可能性がある」と言っていることに着目し，フィルム鑑賞では欠落してしまうものを探ることで，舞踊鑑賞における共感の成立要因について考察することを目的とした。

［研究方法］

同一のモダンダンスの作品についてダンサー，劇場での鑑賞者，ビデオでの鑑賞者にアンケートを行い，その結果を，劇場での鑑賞とビデオによる鑑賞の相違に着目して分析し，劇場での鑑賞とビデオによる鑑賞での共感の成立要因を比較，考察した。尚，本研究では，ダンサーと鑑賞者に共通に選ばれた情動語が，何から感じられたか，その要因がダンサーと鑑賞者で一致していることを共感の指標とした。

アンケートの内容

1. 対象作品中の12の場面の中で最も印象に残った場面を1つ選択。以下その場面について回答。
2. 石黒のモダンダンス評定尺度32項目について「確かに感じる」「感じる」「どちらかというと感じる」「どちらかというと感じない」「感じない」「確かに感じない」の6段階で評定。
3. 予備調査の結果およびシュロスバーグの情動表出分類を参考に7つの情動語を設定し，感じたものにまるをつける。
4. 3で選んだ情動語について主に何から感じたか，45の選択項目から複数可で選ぶ。項目は，舞踊における情動は身体の動きを通して表出されることから，身体部位，顔の表情，身体の表情，呼吸，の4つの視点をおき設定した。情動語の設定，項目の設定による片寄りを防ぐため，その他の欄を設け具体的に書き込めるようにした。

尚，今回はダンサー，劇場での鑑賞者，ビデオによる鑑賞者に一致して多く選ばれた情動語，「悲しい」「不安な」「緊張した」について分析した。

アンケートの実施

対象作品－1988年上演の舞踊作品「心中天の網島」

被験者－出演ダンサーのべ44名（ダンサー群）

劇場での鑑賞者97名（観客群）

ビデオによる鑑賞者86名（VTR群）

（劇場およびビデオによる鑑賞者は年齢18才から22才の女子の一般大学生）

アンケートの実施日－

ダンサーは本番数日前に依頼し，当日回収

劇場での鑑賞者は1988年11月24日25日，郵便貯金会館ホールにて

ビデオによる鑑賞者は1988年12月13日，お茶の水女子大学一般教育学棟2号館にて

［結果・考察］

まず，情動を何から感じたかについて検討した（表1参照）。その結果，観客群とダンサー群に一致して選ばれている項目の方が，VTR群とダンサー群に一致して選ばれている項目より多く見られた。本調査においては，ダンサーと鑑賞者に共通に選ばれた情動語が，何から感じられたか，その要因が，ダンサーと鑑賞者で一致していることを共感の指標としたので，ここからVTR群より観客群の方が，ダンサーとの共感が得られているということができる。個別にみてみると，全体に身体部位に対する意識が一番多く持たれており，特に上半身に関する項目が多く選ばれていることから，上半身が情動表現に役立っていると考えられる。特に「背中」はダンサー群において集中して選ばれている。観客群でも「背中」は多く選ばれてるが，VTR群では選ばれていない。呼吸の項目は観客群で多く選ばれているが，VTR群ではあまり選ばれていない。ここから「背中」や呼吸は劇場にいて強く意識されるものと考えられる。また，VTR群では選択者の30％以上に選ばれた項目は少なく，60％以上に選ばれた項目はなかった。ここから，観客群に比べてあまり意識が集中されていなかったといえる。

次に，モダンダンス評定尺度32項目の反応について検討した。評定尺度に対する反応は，観客群とVTR群では同じプロフィールが得られたが，観客群の方がVTR群より強く感じていることがわかった。その中で，観客群の方がVTR群より感じる度合が特に強い項目には「好き」「熱中する」「高揚する」「引き込まれる」などがみられた。これが，劇場での鑑賞とVTRでの鑑賞の印象の大きな違いであると考えられる。また，ダンサー群と比較してみると「わかる」「好き」「熱中する」「引き込まれる」「高揚する」といった印象は，ダンサー群にも多く感じられていた。

次に，評定尺度32項目について因子分析を行った（図1参照）。観客群とVTR群を比較したところ，両者から抽出された因子は一致しており，力動性，洗練性，美，新奇性の4因子が抽出された。尚，この4つの因子までの寄与率の和は，観客群，VTR群共に全分散の84.8％だった。この

中で，観客群における美の因子には，熱中性の因子が含まれている点が，両者の違いであった。

［検討］

観客群とＶＴＲ群の共通点

①評定尺度に対する反応は，観客群とＶＴＲ群では同じプロフィールが得られており，その印象を構成している要因は，力動性，洗練性，美，新奇性である。

②身体部位，特に上半身に意識が集中している

観客群とＶＴＲ群の相違点

①ＶＴＲ群より観客群の方が強い印象を受けている。

②ＶＴＲ群より観客群においての方が，ダンサーとの共感が得られていると考えられる。

③「熱中する」「引き込まれる」「高揚する」といった熱中性の印象は，観客群において強く感じられ，これらの印象はダンサー群と一致している。

④観客群では「背中」と呼吸への意識が強く持たれており，これらもダンサー群と一致している。

以上のように本調査では，劇場での鑑賞においての方がビデオでの鑑賞よりダンサーとの共感が得られており，その違いは熱中性の印象，「背中」と呼吸への意識の一致にみられるという結果を得た。これらが共感をより強いものにさせる一要因であると考えられる。

［本研究の限界］

①被験者について－被験者は年齢18才から22才の一般大学生とし，舞踊経験などの条件をできるだけ統一したが，被験者の設定によって結果が左右されることが考えられる。

②情動を何から感じたかの選択項目の設定について－この選択項目については，調査を重ね，より適した項目の検討が必要である。

今後は上記の点を課題とし，検討を進めていきたい。

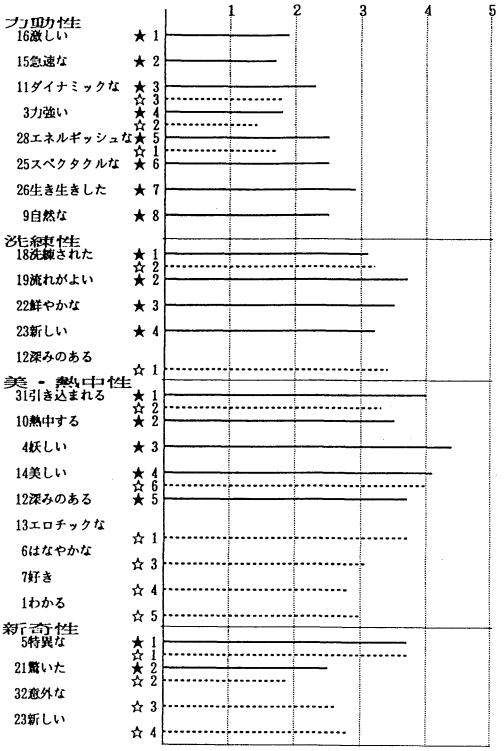

図１　構成因子の平均得点

★＝観客群　★、☆の横の数字は因子得点の高い順をあらわす
☆＝ＶＴＲ群

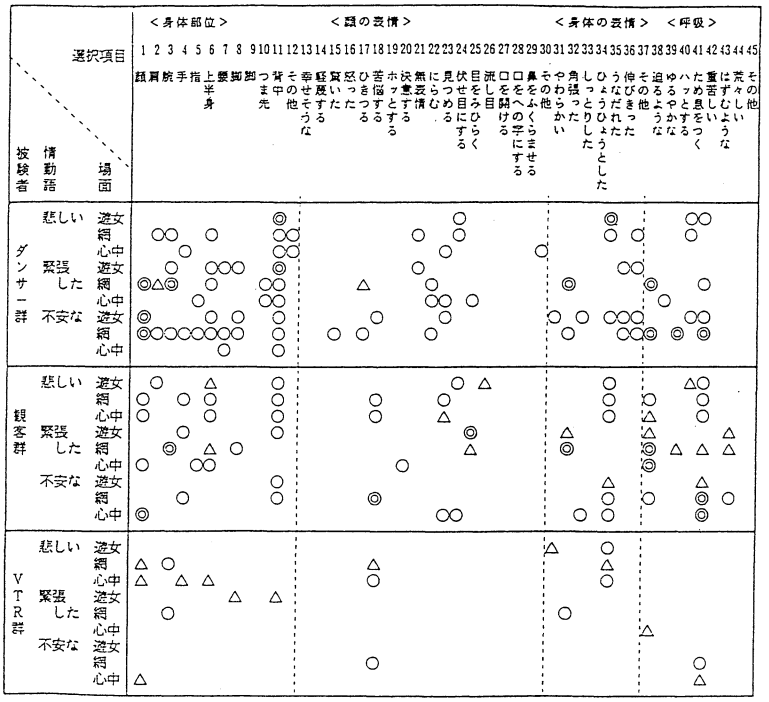

表１　情動を何から感じたか。について選ばれた項目

◎－選択者の60％以上が選んだ項目
○－選択者の40～60％が選んだ項目、選択者が１人の場合
△－選択者の30～40％が選んだ項目